

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

2016年度 全国学力調査の結果発表 大阪は小・中ともに全国平均以下



2016年度の全国学力・学習状況調査の結果が9月に発表され、大阪府の小・中学生の学力は、全教科で全国平均を下回る結果であることが分かった。学校や家庭での学習習慣を問う学習状況調査においても、全体平均を下回るものもあり、依然として学力向上への課題は多い。

2016年度全国学力調査結果 ランキング 文部科学省の資料をもとに作成

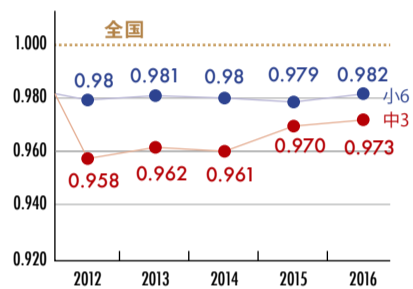
小6				中3					
順位	国A(知識)	国B(応用)	算A(知識)	算B(応用)	順位	国A(知識)	国B(応用)	算A(知識)	算B(応用)
1	石川 78.6	秋田 64.0	石川 82.4	石川 53.5	1	秋田 79.1	秋田 72.4	福井 69.3	福井 50.8
2	広島 78.4	石川 63.0	福井 82.4	秋田 51.8	2	石川 78.1	石川 70.8	秋田 66.6	富山 49.1
3	青森 77.4	福井 62.7	秋田 82.0	福井 51.5	3	富山 78.0	富山 70.5	兵庫 65.7	石川 48.8
	全国平均 72.9	全国平均 57.8	全国平均 77.6	全国平均 47.2		全国平均 66.5	全国平均 62.2	全国平均 44.1	
25	兵庫 73.0	千葉 57.7	佐賀 77.6	鳥取 46.8	25	京都 75.8	愛知 66.4	大阪 61.7	長野 43.7
26	大分 72.7	兵庫 57.7	長野 77.4	岐阜 46.7	26	栃木 75.7	長野 66.3	宮崎 61.7	北海道 43.3
27	岡山 72.6	高知 57.7	福島 77.2	香川 46.7	27	徳島 75.7	大分 66.2	長崎 61.5	山形 43.3
28	佐賀 72.6	山形 57.6	山梨 77.2	大分 46.7	28	福島 75.5	岩手 65.9	長野 61.4	埼玉 43.2
29	滋賀 72.6	岡山 57.5	岐阜 77.2	山梨 46.6	29	愛知 75.5	兵庫 65.8	滋賀 61.3	三重 43.2
30	千葉 72.5	鳥根 57.3	和歌山 77.2	愛知 46.4	30	長崎 75.4	福岡 65.8	栃木 61.2	栃木 43.1
31	長崎 72.4	佐賀 56.9	岡山 77.2	奈良 46.4	31	高知 75.4	埼玉 65.6	茨城 61.1	大阪 43.1
32	山形 72.4	長崎 56.9	奈良 77.1	埼玉 46.3	32	神奈川 75.4	青森 65.5	山梨 61.0	和歌山 42.9
33	宮城 72.0	奈良 56.9	鳥取 77.0	福島 46.2	33	北海道 75.1	奈良 65.5	山形 60.9	千葉 42.7
34	鹿児島 71.7	埼玉 56.7	鳥根 77.0	佐賀 46.2	34	山梨 75.0	高知 65.2	大分 60.9	長崎 42.5
35	群馬 71.7	福島 56.6	大阪 76.9	山形 46.1	35	埼玉 74.9	北海道 65.0	宮城 60.4	宮崎 42.5
36	奈良 71.7	群馬 56.5	徳島 76.9	群馬 45.9	36	福岡 74.8	福岡 65.0	埼玉 60.3	福岡 42.4
37	福岡 71.7	滋賀 56.5	宮崎 76.8	鳥根 45.9	37	佐賀 74.7	佐賀 64.7	千葉 60.3	滋賀 42.3
38	三重 71.7	徳島 56.5	神奈川 76.6	滋賀 45.8	38	岡山 74.7	宮崎 64.5	岡山 60.3	大分 42.1
39	埼玉 71.6	鹿児島 56.5	宮城 76.5	大阪 45.8	39	大分 74.7	徳島 64.4	福岡 60.3	鳥根 41.7
40	愛知 71.4	宮城 56.2	千葉 76.5	和歌山 45.7	40	宮崎 74.5	三重 64.3	鹿児島 59.7	岡山 41.4
41	大阪 71.3	和歌山 56.2	山形 76.3	宮城 45.6	41	三重 74.4	鹿児島 64.2	鳥根 59.5	鹿児島 41.4
42	山梨 71.3	北海道 56.2	山梨 76.0	宮崎 45.5	42	滋賀 74.0	岡山 63.8	佐賀 59.3	福岡 41.2
43	北海道 71.0	愛知 56.2	埼玉 75.9	鹿児島 45.4	43	鹿児島 73.9	滋賀 63.3	福島 59.0	佐賀 41.0
44	栃木 70.6	栃木 55.9	滋賀 75.8	栃木 45.2	44	和歌山 73.5	大阪 63.3	高知 58.5	岩手 40.5
45	神奈川 70.3	宮崎 55.8	北海道 75.3	徳島 45.0	45	大阪 73.5	沖縄 63.1	岩手 57.7	高知 40.1
46	和歌山 70.0	大阪 55.4	栃木 75.0	北海道 44.5	46	沖縄 71.3	和歌山 62.8	沖縄 54.3	沖縄 37.0

2016年度学習状況調査の結果(抜粋)

大阪府教育庁の資料をもとに作成

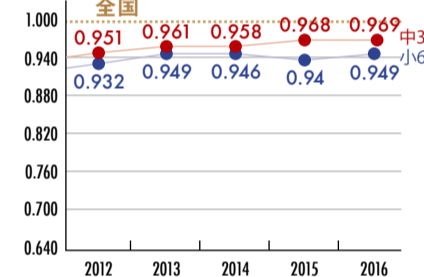
毎日朝ごはんを食べているか?

A. 食べている



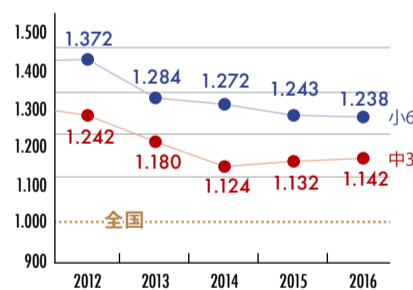
毎日同じくらいの時刻に寝ているか?

A. 寝ている



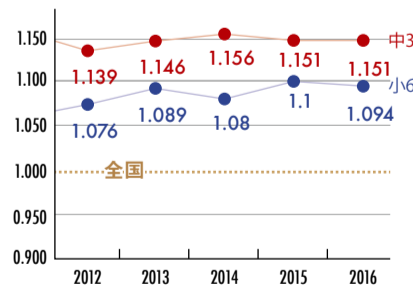
携帯電話やスマートフォンの使用頻度

A. 1時間以上使用している



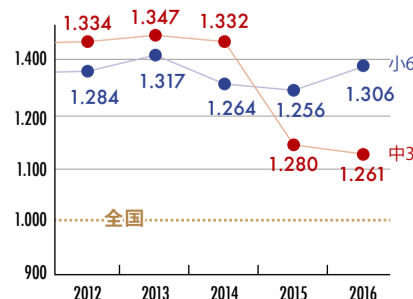
学習塾で勉強しているか?

A. 塾に通っている



学校以外で読書をするか?

A. 全くしない



改善傾向にあるものの依然全国との差は大きい

中 学生の学力において昨年度は一時的に急伸したが、一因は大阪府が学力調査結果を高校入試の内申書の評価に反映させたため生徒たちの学習意欲が向上。学力調査は指導改善を目的としていることから文科省が待たをかけ、入試への活用は中止、今年度は特に国語Bで全国平均との差が開いた。

小学校でも全国平均を下回り、学習状況調査では「授業の中で話し合う活動を行ったか」という設問に対し「よく行った」という回答が学校側の53.6%に対し児童では45.2%にとどまり、両者の意識にずれも見られる。

ただ、学力調査が始まった2007年から比べると全体的に改善傾向にある。大阪府教育庁(府教育庁)では、各市町村が学校と連携し、基礎学習の反復や学習規律の維持・徹底などの取り組みを進めてきた結果と見ている。

学力低調の理由は? 学校と家庭の両面

府 教育庁は、2007年当時から授業の様子や学習環境などについて、全国平均との差が大きい項目があったと答えている。また、就寝時間やスマートフォンの使用時間など、生活習慣と学力に関係があることも国は示している。

大阪大学大学院人間科学研究科の志水教授は、家庭の社会的な階層格差と学力との関係について指摘する。家庭の経済力を示す「経済資本」、教育環境を示す「文化資本」、人間関係を示す「社会関係資本」といった要素が高いほど、子どもの学習意欲が高い傾向にあるという。



学力向上について研究する大阪大学大学院人間科学研究科志水宏吉教授

教育社会学から見た学力に関連する3要素

- 経済資本**
収入や財産など家庭の経済力を示す。
- 文化資本**
文化活動や教育環境を示す。例えば、テレビを見るにしても、ニュースやドキュメンタリーを見る。家庭は文化資本が高いといえる。
- 社会関係資本**
親子ならびに他者との人間関係を示す。友達や近所づきあいの多い家庭の子どもは社会関係資本が高く、学習に対するモチベーションも高い傾向にある。

「大阪府では依然として失業率が高く、経済資本や文化資本が低い家庭が多い。これが学力低調の原因の一つになっていて、格差は都市部になるほど広がっています。北摂地域は3つの資本が比較的高いので、大阪府のなかでも学力は高めです」。また学力は、古くからの地域産業にも影響されるという。「第一次産業(農業、林業、漁業)が栄えている地域では、学力に重きを置かない風潮があります。これは昔から商業や製造業がさかんな大阪にもある程度

当てはまります」と志水教授。さらに、大人自身が都市型の生活になってしまっていることも子どもの学力に影響しているという。

学力向上のための今後の改善策は

大 大阪府では、市町村と連携をとりながら学習意識の改善と取り組みを続けている。その一つが、中学生を対象に2014年から毎年実施している「チャレンジテスト」だ。授業の理解度を測るとともに、個々の強みや弱みを明らかにする目的がある。各学校はその結果を分析し、苦手を克服する取り組みで学力の底上げを計っている。また、2013年からは毎年84校を指定し、中学校への訪問支援を行っている。府と市町村の担当者が、授業の視察や学校の学習計画・結果のヒアリングしアドバイスするなど改善への指導を直接行っている。

一方で志水教授は、家庭学習の大切さを説く。大阪府の通塾率は全国平均を大きく上回っており、学力改善に一定の効果は現れているものの、「塾に行けばそれでいいというわけではない」と指摘。学力が上位にある秋田県では三世帯同居をする世帯が多い。大人の手厚いネットワークが子どもを見守り、大人の後ろ姿を見ながら育つので、学習意欲が芽生えやすいという。「勉強しなさい、だけではなく、親自ら勉強会や習い事に出かけるなど、学ぶ姿を見せることで子どもも学びに前向きになります」と話す。